不安や悩み等に関するアンケート

調査結果をふまえて

堺市教育委員会

令和6年2月

目次

1．アンケート調査概要 ・・・・・P1

2．アンケート結果（単純集計結果から見えるもの） ・・・・・P2～6

3．アンケート結果（クロス集計結果等から見えるもの） ・・・・・P7～10

4．まとめ ・・・・・P11

1. アンケート調査概要

（1）調査の目的

本市児童生徒における学校生活の不安や悩み、「学校に行きづらい、休みたい」といった登校回避感情の有無、登校回避感情を持ったときの状況やニーズ等を把握し、児童生徒が安心して過ごせる学校づくりに向けた取組を推進するため

（2）調査対象

本市立学校に在籍する小学校5年生から中学校3年生までの児童生徒

（3）調査方法

WEB（アンケートのURL及びQRコードを調査対象の全児童生徒に配付）、無記名、任意回答

（4）調査時期

令和5年7月14日から令和5年8月4日まで

（5）回答状況

校種	調査対象数 ①	回答数 ②	無効回答数 ③	有効回答数 ④（②-③）	有効回答率 ④/①
小学校	13,920人	1,384人	3人	1,381人	9.9%
中学校	20,393人	1,484人	0人	1,484人	7.3%
合計	34,313人	2,868人	3人	2,865人	8.3%

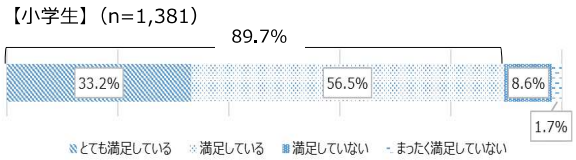
（6）設問

本人属性（回答者が児童生徒か保護者かどうか、回答学年）	一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めたときのきっかけ
生活満足度	過去に「学校に行きづらい、休みたい」と感じて、実際に欠席した日数
将来の夢や目標の有無	学校を休んでいる間に、「学校に行きづらい、休みたい」と感じたこと
これからの生活について、不安や悩み事があるか	一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めてから、実際に休み始めるまでの間に相談した相手
これまで「学校に行きづらい、休みたい」と感じたことがあるか	
一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めた時期	休んでいる間（休みがちになってから）必要と感じた支援

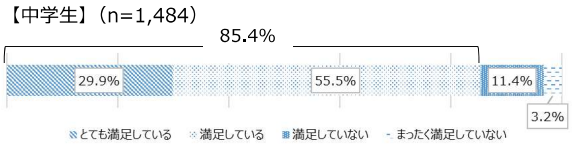
2. アンケート結果（単純集計結果から見えるもの）

（1）生活の満足度

【小学生】（n=1,381）



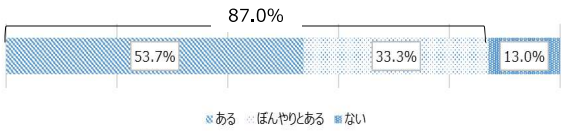
【中学生】（n=1,484）



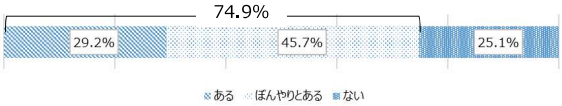
◆ 生活の満足度は約９割の小、中学生が、満足していると回答。

（2）将来の夢や目標の有無

【小学生】（n=1,381）



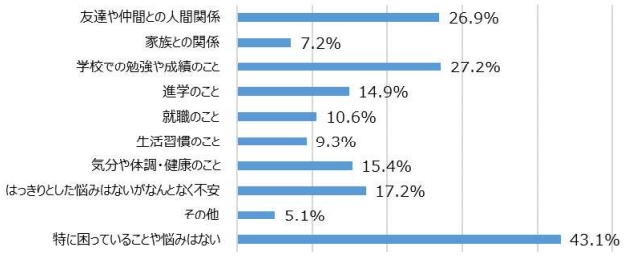
【中学生】（n=1,484）



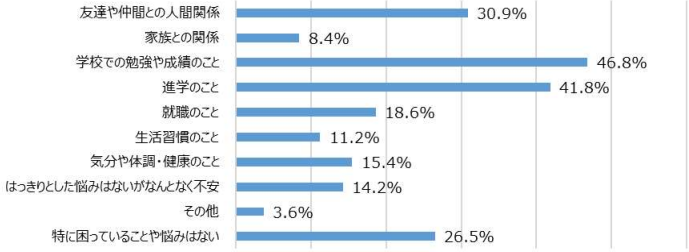
◆ 将来の夢や目標については、「ある」「ぼんやりとある」との回答は中学生は小学生より10ポイント低く、「ない」との回答が、中学生は小学生の約２倍。

（3）これからの生活について、不安や悩み事があるか（複数回答）

【小学生】（n=1,381）



【中学生】（n=1,484）



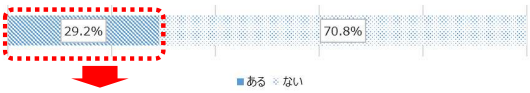
◆ 小・中学生ともに、「友達や仲間との人間関係」及び「学校での勉強や成績のこと」は高く、中学生になると「進学のこと」も高い。

2. アンケート結果（単純集計結果から見えるもの）

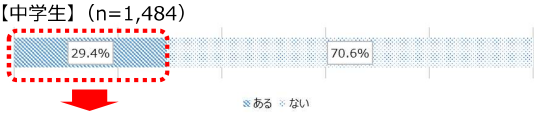
（4）これまで「学校に行きづらい、休みたい」と感じたことがあるか等

①これまで「学校に行きづらい、休みたい」と感じたことがあるか

【小学生】（n=1,381）



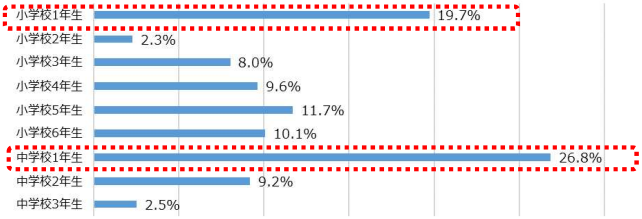
【中学生】（n=1,484）



②一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めた時期

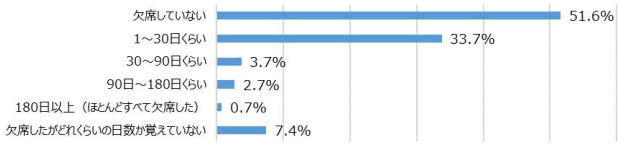
【小学生】（n=403）

【中学生】（n=436）

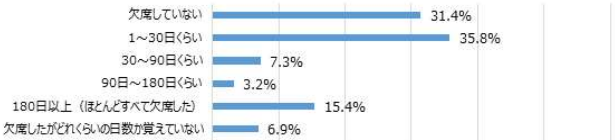


③過去に「学校に行きづらい、休みたい」と感じて、実際に欠席した日数

【小学生】（n=403）



【中学生】（n=436）

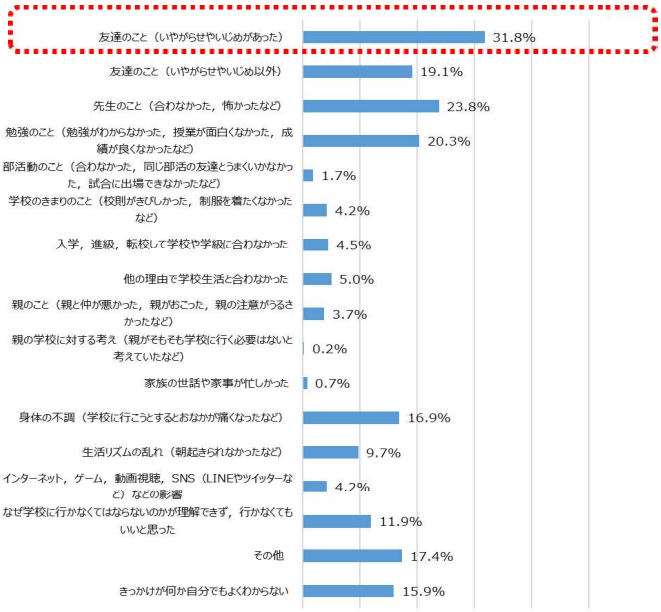


◆ 小・中学生とも約3割が「学校に行きづらい、休みたい」と感じたことがあり、その時期は、小学生は「小学校5年生」、「小学校4年生」、中学生は「中学校1年生」、「小学校1年生」の順であった。
なお、実際には、「欠席していない」児童生徒が小学生は51.6%、中学生で31.4%であり、「気持ち」と「行動（欠席）」には「ずれ」がある。

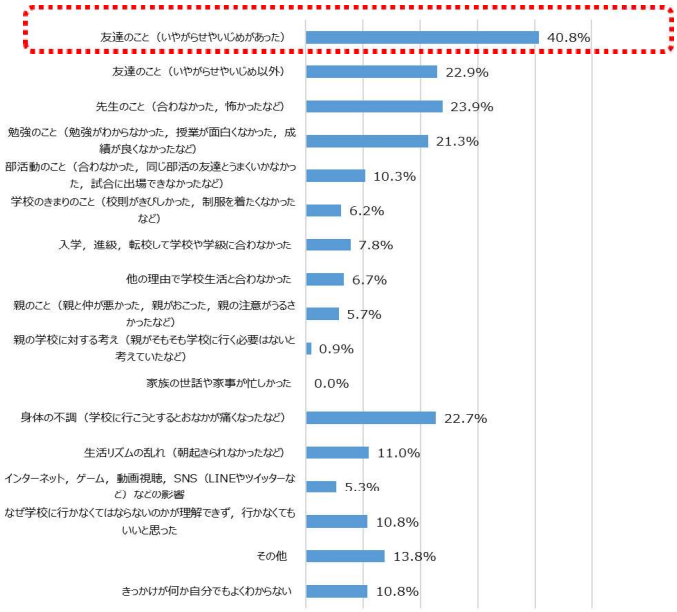
2. アンケート結果（単純集計結果から見えるもの）

④一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めたときのきっかけ（複数回答）

【小学生】（n=403）



【中学生】（n=436）



◆ 小・中学生とも、「友達のこと（いやがらせやいじめがあった）」が最も高く、次いで「先生のこと（合わなかった、怖かったなど）」の結果であった。

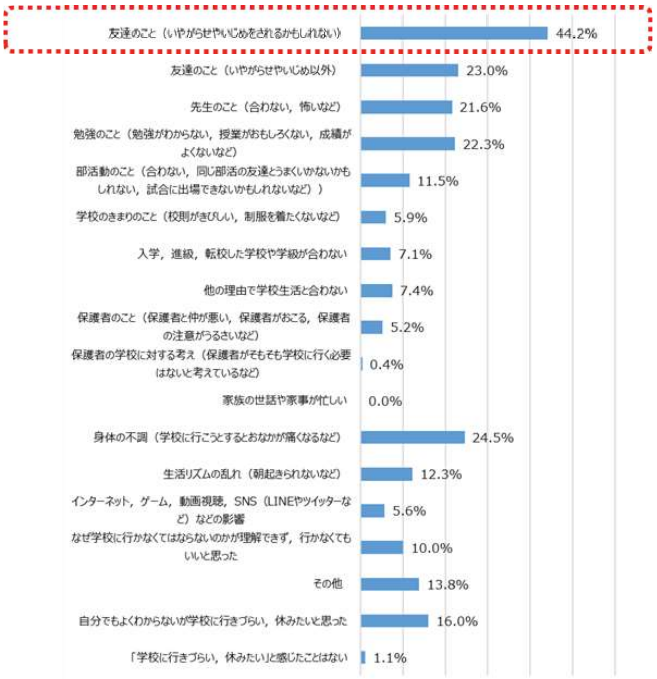
2. アンケート結果（単純集計結果から見えるもの）

（5）学校を休んでいる間に、「学校に行きづらい、休みたい」と感じたこと（複数回答）

【抽出方法】「1～30日くらい」「30～90日くらい」「90～180日くらい」「180日以上（ほとんどすべて欠席した）」と回答した児童生徒の回答を集計

【小学生】（n=165）

【中学生】（n=269）



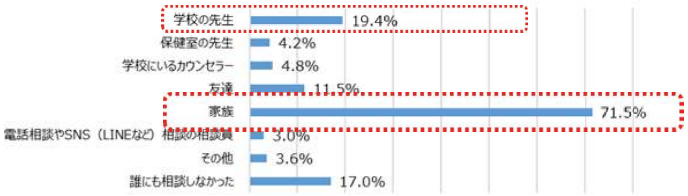
◆ 小・中学生とも、「友達のこと（いやがらせやいじめをされるかもしれない）」が最も高い。

2. アンケート結果（単純集計結果から見えるもの）

（6）一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めてから、実際に休み始めるまでの間に相談した相手（複数回答）

【抽出方法】「1～30日くらい」「30～90日くらい」「90～180日くらい」「180日以上（ほとんどすべて欠席した）」と回答した児童生徒の回答を集計

【小学生】（n=165）



【中学生】（n=269）

◆ 小・中学生とも「家族」が最も高く、次いで「学校の先生」の順。

（7）休んでいる間（休みがちになってから）必要と感じた支援（複数回答）

【抽出方法】「1～30日くらい」「30～90日くらい」「90～180日くらい」「180日以上（ほとんどすべて欠席した）」と回答した児童生徒の回答を集計

【小学生】（n=165）

【中学生】（n=269）

◆ 小・中学生とも「自宅でできる学習（オンライン学習など）」が最も高く、次いで「悩み等を気軽に相談できる相手（学校の先生、学校にいるカウンセラー、友達、家族など）」の順。

3. アンケート結果（クロス集計結果等から見えるもの）

（1）国の「不登校児童生徒の実態把握に関する調査（令和2年度）との比較

【抽出方法】
《堺市》「小学校6年生」又は「中学校2年生」のうち、「30～90日くらい」「90～180日くらい」「180日以上（ほとんどすべて欠席した）」と回答した児童生徒の回答を集計。
《国》　調査への協力が得られた学校に通う小学校６年生又は中学校２年生で、前年度（令和元年度）に不登校であった者のうち、調査対象期間に、学校に登校又は教育支援センターに通所の実績がある者及びその保護者

【最も高い割合のもの】

項目	堺市		国	
①一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めた学年	小学生	**小学校1年生**	小学生	小学校4年生
	中学生	**小学校1年生**　※１	中学生	中学校1年生
②一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めたときのきっかけ	小学生	**先生のこと** （合わなかった、怖かったなど）	小学生	先生のこと （先生と合わなかった、先生が怖かった、体罰があったなど）
	中学生	**友達のこと** （いやがらせやいじめがあった）	中学生	身体の不調 （学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）
③一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めてから、実際に休み始めるまでの間（休みがちになるまでの間）で、学校に行きづらいことについて相談した相手	小学生	**家族**	小学生	家族
	中学生	**学校の先生・保健室の先生**	中学生	家族

※１　「小学校1年生」と回答した生徒の欠席日数　　《30～90日》4.4%　《90～180日》0.0%　《180日～》95.6%

◆ 一番最初に行きづらいと感じ始めた学年は、小・中学生ともに国の結果と異なり、堺市では「小学校1年生」が最も高い。なお、中学生で、「小学校1年生」と回答した生徒の、不登校であった日数をみると、180日以上の割合が最も高く、小学校1年生の時点から不登校傾向がある生徒は長期化する傾向にある。
◆ 一番最初に行きづらいと感じ始めたきっかけは、小学生は、堺市及び国の結果共通して「先生のこと」が最も高い。中学生は、「身体の不調」の割合が高い国の結果と異なり、堺市は「友達のこと（いやがらせやいじめがあった）」が最も高い。いじめの未然防止・早期発見が、不登校対策にもつながるといえる。
◆ 学校に行きづらいことについて相談した相手は、小学生は、堺市及び国の結果共通して「家族」が最も高く、中学生は、「家族」に相談する割合が高い国の結果と異なり、堺市は「学校の先生」や「保健室の先生」に相談する割合が高くなっている。教職員が果たす役割は大きいといえる。

3. アンケート結果（クロス集計結果等から見えるもの）

（2）堺市クロス分析

【抽出方法】
「30～90日くらい」「90～180日くらい」「180日以上（ほとんどすべて欠席した）」と回答した児童生徒の回答を集計。

①回答学年 × 学校を休んでいる間に、「学校に行きづらい、休みたいと感じたこと」、「必要と感じた支援」

【最も高い割合のもの】

項目	小5	小6	中1	中2	中3
①学校を休んでいる間に、「学校に行きづらい、休みたい」と感じたこと	**身体の不調** （学校に行こうとするとおなかが痛くなるなど）	**先生のこと** （合わない，怖いなど）	**身体の不調** （学校に行こうとするとおなかが痛くなるなど）	**友達のこと** （いやがらせやいじめをされるかもしれない）	**勉強のこと** （勉強がわからない，授業がおもしろくない，成績がよくないなど）
②休んでいる間（休みがちになってから）必要と感じた（あったらいいなと感じた）支援	**悩み等を気軽に相談できる相手** （学校の先生，学校にいるカウンセラー，友達，家族など） **自宅でできる学習** （オンライン学習など）	**勉強を教えてくれる場所** **通学している学校以外の居場所**	**自宅でできる学習** （オンライン学習など）	**自宅でできる学習** （オンライン学習など）	**勉強を教えてくれる場所** **通学している学校以外の居場所**

◆ 学校を休んでいる間に休みたいと感じた理由はさまざまであるが、必要と感じた支援は、「自宅でできる学習（オンライン学習）」や「勉強を教えてくれる場所」など、勉強に関するものが高い。

3. アンケート結果（クロス集計結果等から見えるもの）

（2）堺市クロス分析

②一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めた学年×「きっかけ」

【最も高い割合のもの】

学年	項目	学年	項目
小1	**友達のこと**（いやがらせやいじめがあった）	中1	**身体の不調**（学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）
小2	**友達のこと**（いやがらせやいじめがあった） **先生のこと**（合わなかった，怖かったなど） **なぜ学校に行かなくてはならないのかが理解できず，行かなくてもいいと思った**	中2	**友達のこと**（いやがらせやいじめがあった） **先生のこと**（合わなかった，怖かったなど） **勉強のこと**（勉強がわからなかった，授業が面白くなかった，成績が良くなかったなど） **部活動のこと**（合わなかった，同じ部活の友達とうまくいかなかった，試合に出場できなかったなど） **身体の不調**（学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど） **きっかけが何か自分でもよくわからない**
小3	**友達のこと**（いやがらせやいじめがあった） **先生のこと**（合わなかった，怖かったなど）		
小4	**友達のこと**（いやがらせやいじめがあった）		
小5	**身体の不調**（学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）		
小6	**先生のこと**（合わなかった，怖かったなど） **身体の不調**（学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）	中3	**友達のこと**（いやがらせやいじめがあった）

◆ 学校に行きづらい、休みたいと感じ始めた学年別でみても「友達のこと（いやがらせやいじめがあった）」、「先生のこと（合わなかった、怖かった）」や「身体の不調（学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）」をきっかけとする割合が高い。

3. アンケート結果（クロス集計結果等から見えるもの）

③実際に欠席した日数 × 「きっかけ」、「学校を休んでいる間に、学校に行きづらいと感じたこと」、「相談した相手」、「必要と感じた支援」

【最も高い割合のもの】

項目 ＼ 欠席日数	30～90日	90～180日	180日以上
①一番最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めたときのきっかけ	**友達のこと**（いやがらせやいじめがあった） **身体の不調**（学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）	**先生のこと**（合わなかった，怖かったなど）	**友達のこと**（いやがらせやいじめがあった）
②学校を休んでいる間に、「学校に行きづらい、休みたい」と感じたこと	**身体の不調**（学校に行こうとするとおなかが痛くなるなど）	**先生のこと**（合わない，怖いなど）	**友達のこと**（いやがらせやいじめをされるかもしれない）
③最初に学校に行きづらい、休みたいと感じ始めてから、実際に休み始めるまでの間に相談した相手	**家族**	**家族**	**学校の先生**
④休んでいる間に必要と感じた支援	**自宅でできる学習**（オンライン学習など）	**勉強を教えてくれる場所** **通学している学校以外の居場所**	**自宅でできる学習**（オンライン学習など）

◆ 180日以上欠席している場合、休みたいと感じ始めたときのきっかけ及び休んでいる間に、学校に行きづらいと感じたことについて、ともに「友達のこと（いやがらせやいじめがあった）」を理由とする割合が高い。
◆ 180日以上欠席している場合、「学校の先生」に相談している割合が高い。
◆ 休んでいる間に必要と感じた支援は、日数に関わらず、「自宅でできる学習（オンライン学習など）」や「勉強を教えてくれる場所」など、学習面の保障を求める割合が高い。

4. まとめ

【回答者全体の結果から】
◆回答した小・中学生の約3割が「学校に行きづらい、休みたい」と感じたことがあり、その時期は多い順に、小学生は「小学校5年生」、「小学校4年生」、中学生は「中学校1年生」、「小学校1年生」。きっかけは小・中学生とも、「友達のこと（いやがらせやいじめがあった）」が最も高い。なお、実際には、小学生の51.6%、中学生の31.4%は「欠席していない」と回答。
⇒「友達のこと（いやがらせやいじめがあった）」などをきっかけに学校に行きづらい、休みたいと感じ始めるが、実際には「欠席していない」児童生徒も多い。**「欠席していない」＝「学校に行きづらい、休みたいと感じていない」ではない。**

【30日以上欠席した児童生徒の結果から】
◆学校に行きづらい、休みたいと感じ始めた時期（学年）別でみても、「友達のこと（いやがらせやいじめがあった）」、「先生のこと（合わなかった、怖かった）」や「身体の不調（学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）」をきっかけとする割合が高い。なお、欠席日数が180日以上の場合、休みたいと感じ始めたときのきっかけ及び休んでいる間に、学校に行きづらいと感じている理由は、ともに「友達のこと（いやがらせやいじめがあった）」「友達のこと（いやがらせやいじめをされるかもしれない）」と、友達によるいやがらせやいじめに関する割合が高い。
⇒友達によるいやがらせやいじめによる不登校は長期化する傾向にある。**いじめの積極的な認知及び対応により不登校の未然防止・早期対応につなげる。**
◆180日以上欠席している場合、「学校の先生」に相談している割合が高い。
⇒長期欠席につながるような**深刻な内容である場合は、学校の先生に相談する割合が高い。**
◆休んでいる間に必要と感じた支援は、日数に関わらず、「自宅でできる学習（オンライン学習など）」、「勉強を教えてくれる場所」や「通学している学校以外の居場所」を求める割合が高い
⇒**不登校の児童生徒は学習面の保障を求める傾向にある。**

児童生徒一人一人の心の小さなSOSの早期発見等につなげるために

- 教職員の受信力の向上と情報共有
- ICTを活用した支援
- 教職員の相談力向上
- いじめ等の積極的な認知及び対応

等